



Morioka International Relations Association

[発行] 公益財団法人盛岡国際交流協会 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号 盛岡市役所本庁舎1階

[TEL] 019-626-7524 [FAX] 019-622-6211 [URL] <http://www.mira-morioka.com/> [E-mail] info@mira-morioka.comCity of Morioka Celebrating 130th Anniversary

The First Morioka International Haiku Contest

盛岡市は今年で、市制施行130周年を迎え、様々な記念イベントが行われております。第1回盛岡国際俳句大会は、8月3日には吟行ツアー、4日には講演と表彰式が行われ、日本語部門と英語部門、当日投句の日本語部門あわせて6,207作品が世界中から集まりました。記念すべき第1回目は、姉妹都市であるカナダ・ピクトリア市から、テリー・アン・カーターさん（俳句カナダ前会長）をお招きしました。テリーさんは、カナダを拠点に、世界中で英語俳句の普及を行う傍ら、様々な材質の紙を使ってペーパーブックを制作するペーパーアーティストとして活躍されています。日本の歴史、文化、文学へ情熱を傾け、俳句に関する著書も多数出版されています。そんな彼女が初めて訪れたMORIOKAの夏は、南部鉄器の風鈴の音がそよ風に響く、黄昏時が良く似合う街でした。

4日、会場となったアイーナ7階小田島組★ほへるに、およそ500人の来場者が訪れ、講演と表彰式は賑わいました。テレビでも大活躍されている夏井いつき先生によるトークショーに加え、意外にも海外で親しまれ、愛好者も多いという英語俳句の広まりなどが、テリーさんの基調講演の中で紹介されました。英語俳句も一瞬を切り取り表現する楽しみであり、英語でも季語があること、現在形で作ること、そしてカナダで活動している俳句グループの活動の様子や、盛岡とピクトリアの姉妹都市交流の発端となった新渡戸稲造博士が亡くなられたジュビリー病院の庭園のお話しなどもしてくださいました。午前中には、当協会主催の『テリーさんと作る！かんたん英語俳句&素敵な俳句帳』という、イベントを開催。参加者は、英語俳句に親しみながら、自分の俳句を書きこむことのできるペーパーブックの作成に挑戦しました。ワークショップ会場には、テリーさんの作品も数多く展示され、和と洋が絶妙に調和する作品の数々と、テリーさんの和やかでウィットに富んだ説明を聞きながら、参加者は創作活動を楽しんだ様子。参加者の中には、日常の一コマを英語俳句として書留め、テリーさんにアドバイスを求める方もいて、英語とアートが融合した楽しい時間を共有しました。



2019年8月4日 テリー・アン・カーターさんの講演

Morioka dusk
the sound of small iron bell
in the breeze

Created by Terry Ann Carter
大会を記念してテリーさんが盛岡を詠んだ句

さんさ踊りで賑わう盛岡の暑く短い夏、俳句大会は、さんさ踊りの終焉とともに、大成功の内に幕を閉じました。テリーさんは4泊5日という短い滞在でしたが、盛岡青年会議所の御協力を頂き、さんさ踊りパレードにも参加。観光では、報恩寺、盛岡八幡宮、巴染工、盛岡城跡公園、居酒屋など、盛岡をご堪能いただきました。ゆく先々で、御協力いただきました、盛岡善意ガイドの会の皆様をはじめ、素敵な出会いと体験をくださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。日常の一コマを文字にすることでずっと味わう事のできる俳句の素晴らしさを、テリーさんや、この大会でお会いした皆様が教えてくれました。これを機に、皆さんも、“一句詠んで”みませんか？



2019年8月3日 塚木新雄の家で俳句を詠むテリーさん

旅行で使える中国語

中国（蘇州）出身で、盛岡在住歴も長い陳西さんを講師に迎え、7月6日から全4回にわたり開催しました。日常会話で欠かせない朝昼晩の挨拶や、「すみません」「ありがとう」「ごめんなさい」などを練習しました。道を尋ねるときの決めまりのフレーズや、空港で使いそうな言葉など、発音を反復練習で学びました。中国語が初めての方でも、中国の文化や食の紹介も交えながら、楽しく授業をしていただきました。

花巻空港から台湾への直行便が平成30年から就航し、中国語を話す観光客も年々増加しています。アクセスの良くなった台湾への旅行にも役立てられるビギナーズ向けの講座でした。中国語の魅力は、発音の美しさと情熱。知れば知るほど面白い文化も注目です！



Kids Let's Play

ご希望のあった盛岡市内の保育園に講師をお連れして子供たちに国際交流の機会を提供するこの事業では、今年は8カ所の保育園を回ります。民族衣装を着たり、講師の出身国で遊ばれているゲームをみんなで体験したり、世界にはどんな国があったらどんな人達が住んでいるのか？を体験を通して学びます。この企画に多数携わってくださったスレイマンさんは、9月にナイジェリアに帰国されました。楽しい思い出をありがとう！！



5月29日（水）くりやがわ保育園
リカルド・ナバロ・ロドリゲスさん
（キューバ出身）



7月19日（金）みたけ保育園 ムスタファ・スレイマンさん（ナイジェリア出身）

EVENT REPORT

今年度上半期に開催した盛岡国際交流協会のイベントをご紹介します。

日本文化体験講座 Let's Do Kendo



今年度の日本文化体験講座では、外国籍市民の方々からも「やってみたい！」と人気の高い日本の伝統ある武道の一つ、剣道を体験しました。講師に剣道六段の深田耕治先生を迎え、剣道の理念や礼儀作法、竹刀の持ち方から実際の打ち込みまで色々挑戦してみました。最初は緊張した面持ちで竹刀を握っていた参加者ですが、思ったよりも上手で覚えも早かったため、小手や胴打ち、合わせ技なども頑張ってトライしてみました。休憩時間にはみんな打ち解けて雑談するなど、剣道を通して楽しく国際交流できました。

中学生による国際交流スピーチコンテスト

8月10日（土）上田公民館にて開催。今年は、昨年を上回る57人の応募がありました。世界に伝えたいMORIOKAをテーマに、個性あふれる素晴らしい作品が寄せられた中、事前選考を通過した20人のスピーチ発表が行われました。最優秀賞に輝いたのは、下小路中学校の千葉葉夏子さんが選ばれました。

同日に、第26回中学生ピクトリア市研修の団員選考会も実施し、今年も15人の中学生が姉妹都市ピクトリア市で10月26日から1週間の研修を行います。



最優秀賞を受賞した盛岡市立下横中学校（3年）千葉葉夏子さん

<優秀賞>

盛岡市立周川中学校（3年）小山田理人さん、
小林優香さん、盛岡市立仙北中学校（3年）
鈴木菜未さん、盛岡市立大宮中学校（3年）
三松 夏輝さん



入賞者と最優秀賞作品ホームページで公開中！

ガーデンパーティ～世界の屋台村～

6月に開かれたガーデンパーティでは、様々な国の料理を売る屋台が立ち並び、岩手大学の一角が異国情緒溢れる素敵な空間になりました。今年は中国、韓国、タイ、インドネシア、ベトナム、フランスなど10を超える国や地域が参加しました。

イベントでは屋台だけでなく、フィリピングループによる可愛らしい踊りの発表や、岩手大学留学生会代表、イ・セフンさんによるテコンドーの実演、また、ゲストとしてお呼びした岩手さんさの会☆加藤家の皆様によるさんさ踊りパフォーマンスで会場は大いに盛り上がりました。世界の屋台村は美味しく楽しく、大成功に終わりました。



ボランティア スキルアップ講座

6月8日から全3回にわたり、協会ボランティアにご登録いただいているの方々を対象に開催しました。現在盛岡市が取り組んでいるホストタウン活動についての座学や、盛岡の四季の特徴や魅力、地元名物の写真を題材として、チームに分かれて英語でプレゼンテーションにも挑戦しました。日常生活で英語を話す機会があまりないという方も多く、英語好き仲間とのコミュニケーションの場としてフレンドリーな雰囲気の中、英語表現の仕方をディベートしながら会話練習を行う講座となりました。今後もボランティアの皆さんの活躍の場やコミュニケーションの機会を増やしていけるよう、来年度も行いますので楽しみに♪



国際理解講座 - ネパール編 -

もりおか老人大学の仙北校、乙部校、上田校、大慈寺校で計4回の開催となりました。今年のテーマはネパール。講師は美しい自然や、野生のサイやフクロなども見られるネパールはチトワン出身のギミレ・チデイス先生です。20代前半で船学に励むため来日し、一度挫折して母国へ帰るも、恩師に説得されまた来日、そして努力を重ね今では日本語がとてもお上手で、理療課の教諭としてご活躍なさっています。毎回お話しする内容が濃いので、ネパールについて実に色々なことを知ることができました。例えば、「ネパールには125もの民族があり、123の言語がある」、「消費税率は13%と日本より高い」、「日本と比べると不便な部分はたくさんあるが、ネット環境においては進んでいる」、「葬儀はヒンドゥー教のやり方に則り、死亡が判断されてから死後硬直が始まる3、4時間前に火葬し、川に散骨する。お墓や仏壇は無い」、「ギミレ先生がネパールに帰る際、持って行くと喜ばれるお土産は日本のカレーうどん」など、挙げるのとリがありません。



ギミレ先生のお話しの中で特に印象に残ったもの。それは「地域の繋がりの強さ」です。先生が子供の頃は、村の大人たちはみんなお母さんでありお父さん。悪いことをした時には、それを見ていた大人達にひどく叱られたそう。その代わりに帰国した際には「おかえり」と温かく迎えてくれ、家に招かれお茶やご飯をご馳走されたり、家族同然の扱いを受けるそうです。子育てや介護は地域全体ですもの、という意識がまだ根付いているそうで、日本で社会問題にもなっている「孤独死」は殆ど無いとのこと。「盛岡は良い街ですし、人々も温かくとても大好きです」とギミレ先生。しかし目の見えない先生は点字ブロックを歩いていても、自転車と接触し白杖が折れたり、心無い言葉を浴びせられることもあるそう。「盛岡に住む自分も含め、盛岡をもっと色々な人にとって住みやすい街にしましょうよ」と言ってくれた先生の言葉はとても大事だと思いました。ネパールのことはもちろん、先生独自の視点から「多文化・多様性」について考えさせられるお話しを聞くことができ、とても有意義な国際理解講座になりました。

Morioka Apple go across the Pacific

昨年度から本格的にカナダへ向けて輸出のはじまったMorioka Appleの売れ行きが好調です。盛岡広域圏で生産された4品種（シナノスイート、シナノゴールド、ふじ、はるか）の中でも、贈答用へ主に使用される等級と大きさ秀32玉36玉に絞って輸出販売がなされ、今年2月から遠く太平洋を渡ったカナダで開始されました。谷藤市長をはじめとするPR隊がピクトリア市長や在バンクーバー日本総領事館を表敬訪問し、ピクトリア市内やバンクーバーにあるスーパーマーケットで盛岡さんさ踊りを披露するなど、伝統文化を紹介しながら、プロモーションを行いました。盛岡りんご1個のカナダでの販売価格はおよそ600円というので、現地の安価なものに比べると約30倍の値段がするものの、盛岡の甘くて美味しいりんごは、カナディアンにも評価され、販売は大好調で全輸出数量4.3トンが数日で完売されました。今後は、クリスマスギフトとしての需要もあることから、更なる販路拡大が期待されます。



りんごPRの為ヘルプス市長を表敬した谷藤市長 (2019年2月)

補助金交付制度下半期のお申込みの締め切りは、11月15日(金)迄

盛岡国際交流協会では、市内の民間団体が行う国際交流活動を支援するため、補助金交付制度を設けています。上半期には、NPO法人Asia Environmental Allianceの「岩手大学生とインドネシア国立ガネーシャ教育大学生のさんさ踊り国際交流事業」と(一社)盛岡青年会議所の「羅東国際青年商會との姉妹JC交流事業」の2団体の活動を支援するため補助金を交付しました。下半期は令和元年11月15日(金)まで募集をしておりますので、世界に開かれたまち・盛岡のため国際交流活動を実施したいけれど、費用が・・・という方、是非、補助金交付制度をご利用ください。詳しくは、HPの「助成・支援」をご覧ください。申請について何か分からないことがある場合は、お気軽にご相談ください。



インドネシアの大学生たちによるさんさ踊り

Volunteers Activities Report

(公財)盛岡国際交流協会では、ボランティア登録度があります。ボランティアには、通訳翻訳と、国際交流推進、ホームステイ受け入れの3種類があります。ご登録をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。



8月4日に行った「デリーさんと作る! 英語併用と併句帳」ワークショップでの英語サポート



8月30日からスタートした中学生ピクトリア市研修で作成する英語プレゼンテーションのサポート



9月7日に行ったラグビーカナダ女子セブンス歓迎セッションでの通訳及び交流の様子



Maple Leafs training camp in Morioka Rugby Canada Women's Sevens



来年開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に先駆けて、9月1日(日)から9月8日(日)までラグビーカナダセブンス女子チームが盛岡で事前キャンプを行いました。9月1日の夜に盛岡入りしてから、トレーニングや交流イベントに参加したチームは、締め括りとなる7日(土)、いわぎんスタジアムで、盛岡市制施行130周年そして盛岡南公園球技場開場20周年を記念したJapan セブンス・デベロップメント・スコッドとの親善試合に臨みました。一週間に渡るこの事前キャンプ中、カナダのホストタウンである盛岡市では、宿泊やトレーニング、食事面のサポートだけでなく、来年の本番をより居心地良く、リラックスして迎えていただけるよう、盛岡について知ってもらったり、地元市民との交流を図るイベントも企画しました。ホストタウンとしてカナダの選手を迎える準備はばっちりです。みんなで応援していきましょう！



子供たちと給食を食べるエマ・チャウン選手

9月4日、カナダチームはお昼に土淵中学校を訪れました。生徒と一緒に「ピクトリア(姉妹都市)給食」を食べながら、ラグビーやカナダについての質問を受けたり、子供達に「どんなスポーツが好きなの？」と尋ねたりとコミュニケーションを取り交流を深めました。給食を楽しんだ後、ラグビーボールを持って校庭へ向かうと土淵小学校のみんなも待っていてくれました。生徒のみんなとボールを使った簡単なゲームなどで大盛り上がり！最後に生徒のみんなから、心の込もった応援メッセージ入りのホストタウン旗を貰い嬉しそうに選手達でした。

土淵中学校で子供達と触れ合った後は、盛岡市内の観光へ。もりおか歴史文化館で、チャグチャグ馬こや盛岡市とピクトリア市の友好の証『ミューラル』を見たり、山車に乗って太鼓を叩いてみたりと盛岡について楽しく学びました。その後は小雨がぱらつく中、盛岡八幡宮にお参りへ行きました。バスから降り立った選手達は、神社や鳥居が珍しかったのか記念写真をたくさん撮り、興味深そうに色々見て回っていました。



盛岡八幡宮にて集合写真を撮るバチリカ



今回チームは色々な日本文化を体験しました。生け花を鑑賞し、実際に生けてみたり、「か組」の秋祭り練習に参加したり、剣道体験で実際に面打ちをしたりと盛りだくさん！楽しんでいただけたようです。

そして、9月7日は今回の事前合宿での一大イベント、Japan SDSとの親善試合@いわぎんスタジアム！午前中はラグビークリニックを開催し、子供達にラグビーを教えてくれた選手達。暑い日でしたので汗をいっぱいかきつつも、たくさんの笑顔を見ることができました。選手達も参加した子供達と同じくらい楽しんでいたのが印象的でした。

午後はいよいよ親善試合です。いつもハッピーで笑顔の多いカナダチームの面々も、アップを始める表情はやはりプロのアスリートです。試合は終始カナダのペースでしたが、Japan SDSも必死の反撃を見せ、とても良いゲームになりました。



ラグビークリニックに参加してくれた子供達と



ボールを死守するオリヴィア・デ・コウヴィエ選手



MVPに選ばれ谷藤市長からギフトを受け取るバム・ブイサ選手

賛助会員募集中！！

会員になると当協会が主催する語学講座をはじめとする各種講座・イベントの参加費の割引などが受けられる他、賛助会員は優先的に受講が可能となります。会員だけが参加できる交流イベントへのご招待もあります。皆さまの御参加をお願いいたします。

●年会費

個人：一口1,000円

団体：一口10,000円 (4月～翌年3月まで※1年ごとに更新となります。)



盛岡国際文化協会キャラクター